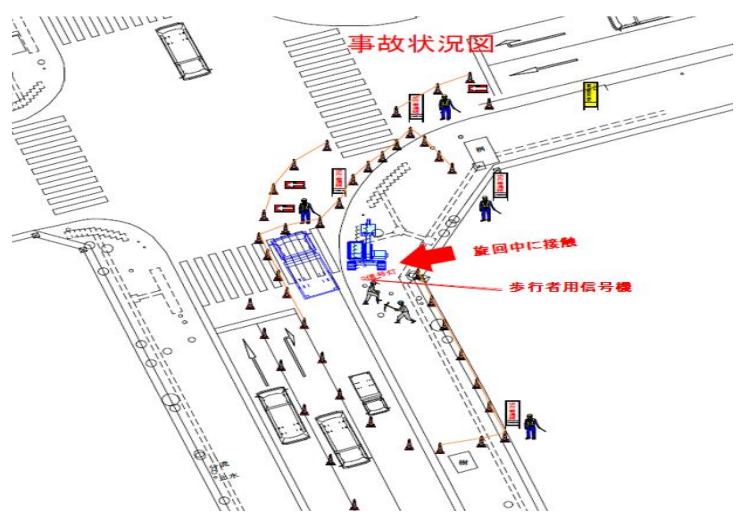


# 公共工事等事故情報

|      |   |      |                           |       |   |         |      |
|------|---|------|---------------------------|-------|---|---------|------|
| 事故分類 | 物損公衆災害  | 発生日時 | 令和 2 年 12月 2日(水曜日)12時 30分 |       |   | 工事関係者区分 | 一次下請 |
| 事故区分 | 空線・信号等損   | 性別   | —                         | 年齢    | — | 業種区分    | 土木   |
| 被災程度 | 歩行者用信号機のカバー破損   |      |                           | 事故レベル | I | 休業見込日数  | —    |
| 工事概要 | 歩道舗装補修工事  |      |                           |       |   |         |      |
| 事故概要 | バックホウ旋回時にアームが歩行者信号機に接触し、信号機カバーを破損したものを。   |      |                           |       |   |         |      |
| 事故原因 | バックホウの合図者による指示の遅れとオペレーターの周囲の確認不足があったため。   |      |                           |       |   |         |      |
| 改善策  | KY活動や社内研修を実施し、合図者の誘導なしでの重機操作を行わせないように再発防止を図る。また、今後の作業については、指示・合図の徹底と通行者の安全を確保することも徹底する。 |      |                           |       |   |         |      |

## 事故状況図



## 改善状況図

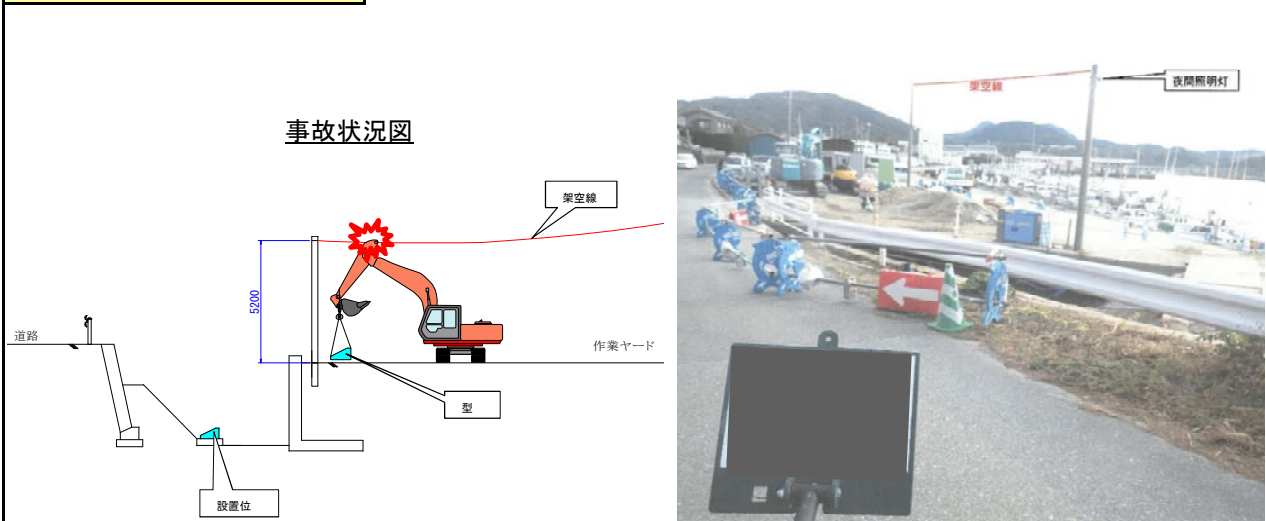
再発防止に向けた安全訓練実施状況



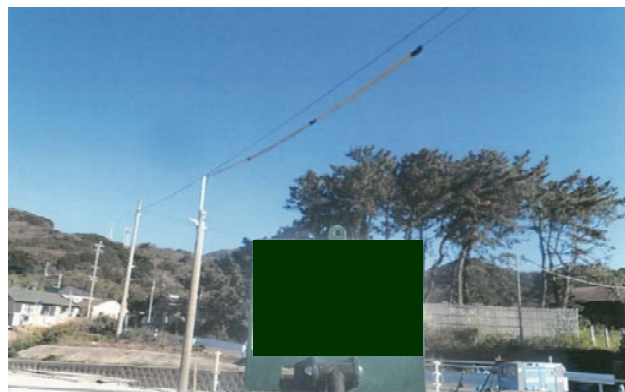
# 公共工事等事故情報

|      |   |      |                         |       |   |         |      |
|------|---|------|-------------------------|-------|---|---------|------|
| 事故分類 | 物損公衆災害  | 発生日時 | 令和 2年12月 3日(木曜日) 11時30分 |       |   | 工事関係者区分 | 一次下請 |
| 事故区分 | 空線・信号等損   | 性別   | —                       | 年齢    | — | 業種区分    | 土木   |
| 被災程度 | 架空線損傷   |      |                         | 事故レベル | I | 休業見込日数  | -    |
| 工事概要 | ブロック積擁壁設置工事   |      |                         |       |   |         |      |
| 事故概要 | ブロック積基礎コンクリートの型枠をバックホウにて製作場所から設置箇所へ小運搬し、設置しようと旋回したとき、バックホウのブームが架空電線に触れ、切断した。  |      |                         |       |   |         |      |
| 事故原因 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生が予想できたのに電線の防護等の対策を怠った。</li> <li>・バックホウオペレーターの頭上不注意。</li> </ul>  |      |                         |       |   |         |      |
| 改善策  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・バックホウ作業時に合図者を配置するようにした。</li> <li>・KY活動の際に、当日の作業内容や手順、工事区域内における架空線等の位置、作業に伴うリスクとその防止策を作業員全員に周知徹底した。</li> <li>・架空線の視認性を良くするため、保護カバーを施した。</li> </ul> |      |                         |       |   |         |      |

## 事故状況図



## 改善状況図



架空線に保護カバーを設置

## 公共工事等事故情報

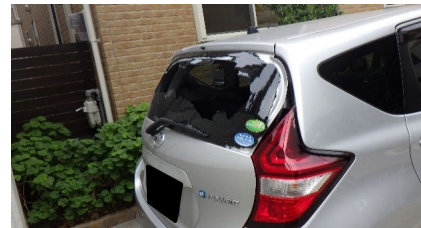
|      |   |       |                           |    |        |         |      |
|------|---|-------|---------------------------|----|--------|---------|------|
| 事故分類 | 物損公衆災害  | 発生日時  | 令和 2年 12月 7日( 月曜日) 10時00分 |    |        | 工事関係者区分 | 一次下請 |
| 事故区分 | 車両・自転車等損傷   | 性別    | —                         | 年齢 | —      | 業種区分    | 設備   |
| 被災程度 | リアウインドウの破損  | 事故レベル | I                         |    | 休業見込日数 | —       |      |
| 工事概要 | 電気設備工事  |       |                           |    |        |         |      |
| 事故概要 | 高所作業車を用いた作業中にナットを落下させ、隣接地(民家)に駐車していた車両のリアウインドウを破損させた。   |       |                           |    |        |         |      |
| 事故原因 | 本件作業に先立ち、工事敷地内や公道部分について立ち入り禁止措置を行う等の安全対策を実施していたが、当該電柱に隣接する民家敷地に対する安全対策がなされておらず、落下したボルトが隣接地敷地内に駐車していた車両上に落下したものである。  |       |                           |    |        |         |      |
| 改善策  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高所作業での落下物による被害発生が想定される範囲を事前に入念に確認し、立ち入り禁止措置や養生等の対策を講じることとした。</li> <li>・周辺に対する様々な影響について、施工計画検討段階で十分検討を行うこととした。</li> <li>・作業前ミーティングを行い高所ナット取り外し作業で器物を落下させないように慎重に作業を行うよう喚起することとした。</li> </ul> |       |                           |    |        |         |      |

## 事故状況図



高所作業車で作業中に誤ってナットを落下

隣家駐車場の車のリアウインドウにナットが落下してリアウインドウを破損



落下したナットで破損したリアウインドウ



落下したナット

## 改善状況図

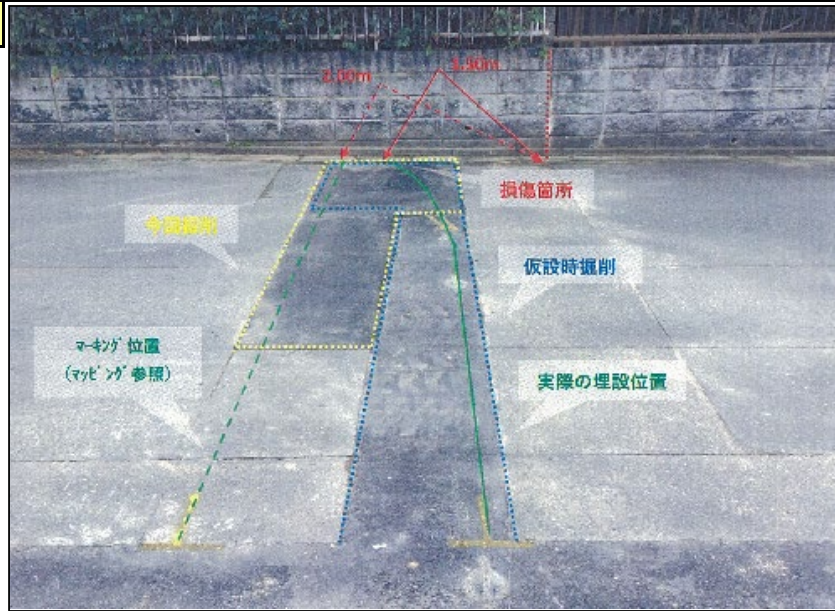


落下物被害想定される範囲を確認し、車を範囲外に移動し、立ち入り禁止範囲を拡大

# 公共工事等事故情報

|      |   |      |                      |       |   |         |      |
|------|---|------|----------------------|-------|---|---------|------|
| 事故分類 | 物損公衆災害  | 発生日時 | 令和2年12月5日(土曜日)10時38分 |       |   | 工事関係者区分 | 一次下請 |
| 事故区分 | その他の物損  | 性別   | —                    | 年齢    | — | 業種区分    | 土木   |
| 被災程度 | ガス供給管(φ30ポリエチレン管)を破損  |      |                      | 事故レベル | I | 休業見込日数  | —    |
| 工事概要 | 管布設工事   |      |                      |       |   |         |      |
| 事故概要 | バックホウにて管取付掘削時にガス管(φ30mm)を損傷させたもの。   |      |                      |       |   |         |      |
| 事故原因 | <p>管の取付部の掘削において、ガス管のマーキングが剥がれていたため、バックホウの運転手がガス管に気づかず損傷させたもの。</p> <p>また、以前にガス管のマーキングを行ったバックホウ運転手と今回のバックホウ運転手が交代していたことも事故の原因としてあったと考えられる。</p>        |      |                      |       |   |         |      |
| 改善策  | <p>掘削作業当日に関係作業員全員に埋設物の位置等について、現場確認による周知・徹底を行うことを指導した。また、掘削断面内の埋設物は事前に露出確認を行う等の適切な保安措置を講じ、復旧後は埋設位置のマーキングを徹底し、工事の進捗により剥がれた際は復元を忘れないよう指導し再発防止に努める。</p> |      |                      |       |   |         |      |

## 事故状況図



## 改善状況図



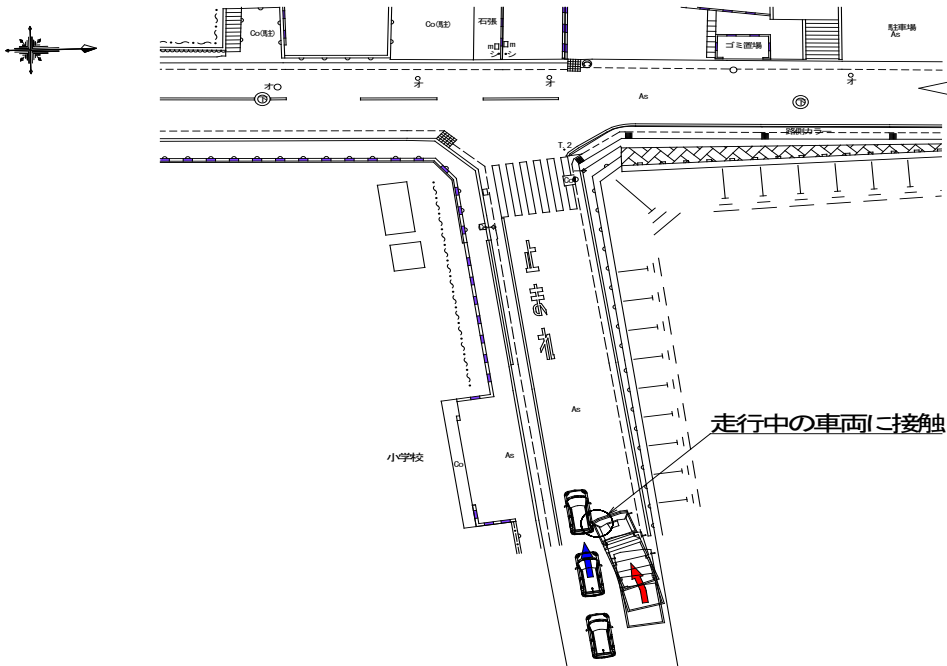
再発防止に向けた安全訓練を実施

# 公共工事等事故情報

|      |   |      |                         |       |   |         |      |
|------|---|------|-------------------------|-------|---|---------|------|
| 事故分類 | 物損公衆災害  | 発生日時 | 令和 2年12月14日(月曜日) 10時00分 |       |   | 工事関係者区分 | 一次下請 |
| 事故区分 | 車両・自転車等損傷   | 性別   | —                       | 年齢    | — | 業種区分    | 土木   |
| 被災程度 | ダンプトラックが一般車両と接触し破損させた   |      |                         | 事故レベル | I | 休業見込日数  | —    |
| 工事概要 | 管布設工事   |      |                         |       |   |         |      |
| 事故概要 | 車道右側に待機していた残土運搬用のダンプトラック(4t)が、土砂積み込み現場へ移動しようと発車したところ、左側を走行していた車両(被災車両)の右後方に接触し、当該車両を破損(タイヤ上部ボディ部分に傷)させたもの。  |      |                         |       |   |         |      |
| 事故原因 | ダンプトラック運転者による始動時の周辺確認が不十分であったこと及びダンプトラックが車道右側に停車していたうえ方向指示器を点灯させずに始動したため。   |      |                         |       |   |         |      |
| 改善策  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・車両始動時における後方等周囲の安全確認及び工事車両は占用帯内に停車することを徹底した。</li> <li>・やむを得ず道路上に停車する際は交通法令の順守を徹底したうえで交通誘導員を配置し、指示に従い運転させることとした。</li> <li>・事故再発防止研修を実施し、事故防止に努めることとした。</li> </ul> |      |                         |       |   |         |      |

## 事故状況図

## 事故状況図

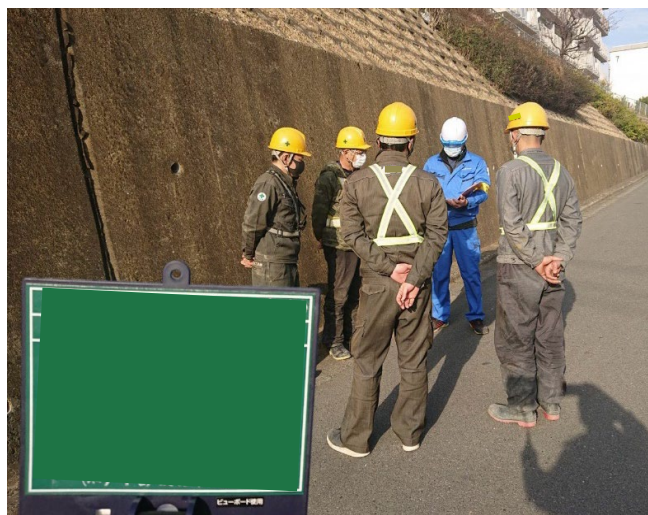


## 改善状況図

## 事故再発防止研修

### 研修内容

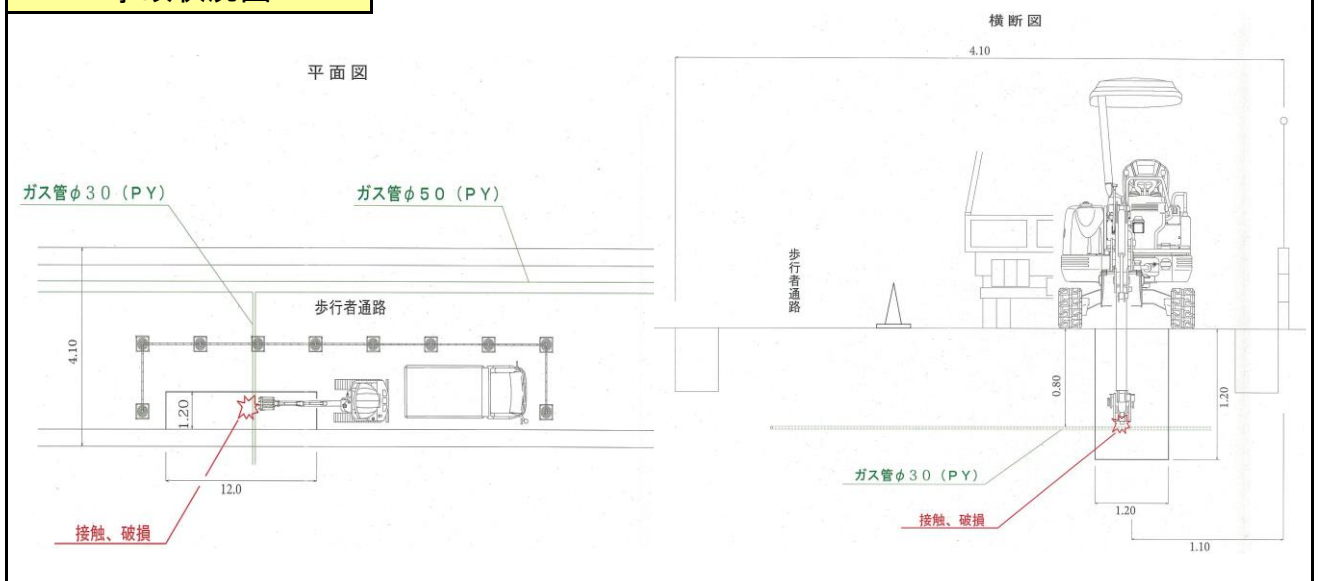
- ・事故の原因及び反省点
- ・再発防止対策の確認



# 公共工事等事故情報

|      |   |      |                                   |       |   |         |      |
|------|---|------|-----------------------------------|-------|---|---------|------|
| 事故分類 | 物損公衆災害  | 発生日時 | 令和 2 年 12 月 17 日( 木曜日 ) 11 時 55 分 |       |   | 工事関係者区分 | 一次下請 |
| 事故区分 | 埋設物等損傷  | 性別   | —                                 | 年齢    | — | 業種区分    | 土木   |
| 被災程度 | ガス管(φ30mm)の破損   |      |                                   | 事故レベル | I | 休業見込日数  | —    |
| 工事概要 | 配水管布設工事   |      |                                   |       |   |         |      |
| 事故概要 | 地下埋設物(ガス管)の付近を掘削する際に、バックホウ(0.15m)で掘削し、バケットがガス管(φ30mm)に接触し破損させたもの。   |      |                                   |       |   |         |      |
| 事故原因 | 地下埋設物(ガス管)の付近を掘削する際、地下埋設物(ガス管)の位置を確認しながら、慎重に人力で掘削すべきところを、バックホウ(0.15m)で掘削したため。   |      |                                   |       |   |         |      |
| 改善策  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下埋設物の付近を掘削する際は、人力で掘削を行い慎重に作業することを徹底した。</li> <li>・事故再発防止研修を行い、安全意識の向上に努めた。</li> </ul> |      |                                   |       |   |         |      |

## 事故状況図



## 改善状況図

### 事故再発防止研修

#### 研修内容

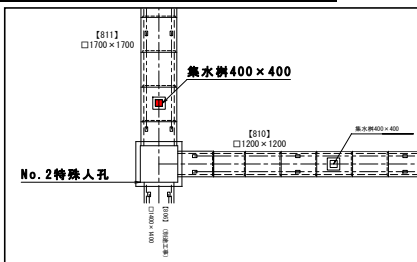
- ・事故の原因及び反省点
- ・再発防止対策の確認



# 公共工事等事故情報

|      |   |      |                           |       |    |         |       |
|------|---|------|---------------------------|-------|----|---------|-------|
| 事故分類 | 労働災害  | 発生日時 | 令和2年 12月 23日(水曜日) 10時 00分 |       |    | 工事関係者区分 | 一次下請  |
| 事故区分 | その他   | 性別   | 男性                        | 年齢    | 44 | 業種区分    | 土木    |
| 被災程度 | 左腓骨遠位端骨折  |      |                           | 事故レベル | Ⅱ  | 休業見込日数  | 14日程度 |
| 工事概要 | 下水道工事   |      |                           |       |    |         |       |
| 事故概要 | 特殊人孔型枠組立作業中、型枠移動時にボックスカルバート上(深さ1.7m)の開口部(400×400)に右足を踏み入れ左足首をひねった。                                  |      |                           |       |    |         |       |
| 事故原因 | 開口部の対策を講じないまま、ボックスカルバート上(深さ1.7m)で作業していたこと   |      |                           |       |    |         |       |
| 改善策  | <ul style="list-style-type: none"> <li>開口個所の養生・表示板の設置</li> <li>足元や頭上等の確認を行うことの徹底(再発防止会議)</li> </ul> |      |                           |       |    |         |       |

## 事故状況図



## 改善状況図



落下防止蓋設置及び表示板設置

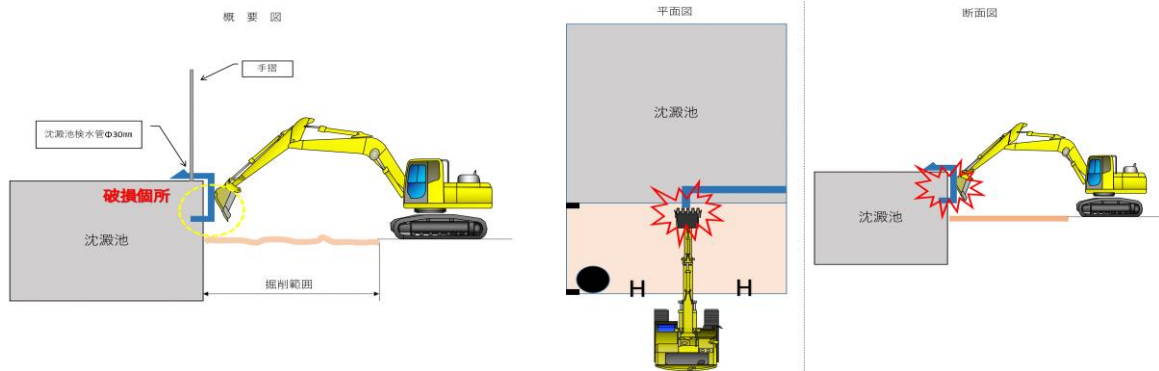


災害再発防止会議

# 公共工事等事故情報

|      |   |      |                       |    |         |      |    |
|------|---|------|-----------------------|----|---------|------|----|
| 事故分類 | 物損公衆災害  | 発生日時 | 令和2年12月24日(木曜日)8時45分頃 |    | 工事関係者区分 | 一次下請 |    |
| 事故区分 | 埋設物等損傷  | 性別   | —                     | 年齢 | —       | 業種区分 | 土木 |
| 被災程度 | 口径φ30検水管破損  |      | 事故レベル                 | I  | 休業見込日数  | —    |    |
| 工事概要 | 場内配管工事(開削工)   |      |                       |    |         |      |    |
| 事故概要 | 沈澱池流出管等を布設するためバックホウによる掘削作業を開始しようとした時に、露出させていた2系沈澱池の葉注後検水配管(仮設管、口径:φ30)を破損したものの。   |      |                       |    |         |      |    |
| 事故原因 | バックホウによる掘削作業に当たり監視者を配置していた。しかしながら事故当時、作業開始前に監視者が道具を取りに他の場所にいた時、バックホウの運転者が単独で作業に着手してバケット先端を当該検水配管に接触したものの。   |      |                       |    |         |      |    |
| 改善策  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全教育訓練やKY活動等で、露出管等の近傍で機械作業を行う際は、下記事項を徹底するよう再教育し、周知した。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1)当日の作業手順や作業員の役割等を確認する。</li> <li>2)作業員は、単独で作業を行わないこと。</li> <li>3)露出管等の近傍で機械作業を行う際は、監視員を配置し、運転者は監視員等が現場を離れる際は、作業を中断すること。</li> </ol> </li> <li>・露出されている配管・配線については、必要な個所に防護する。</li> </ul> |      |                       |    |         |      |    |

## 事故状況図



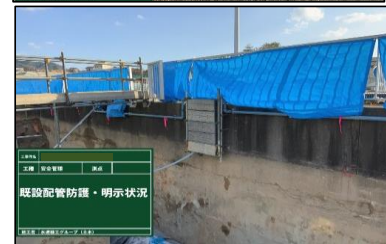
## 改善状況図

### 事故再発防止策検討会議の実施



作業  
手順  
確認

露出  
配管  
防護  
状  
況  
(保安  
措置)

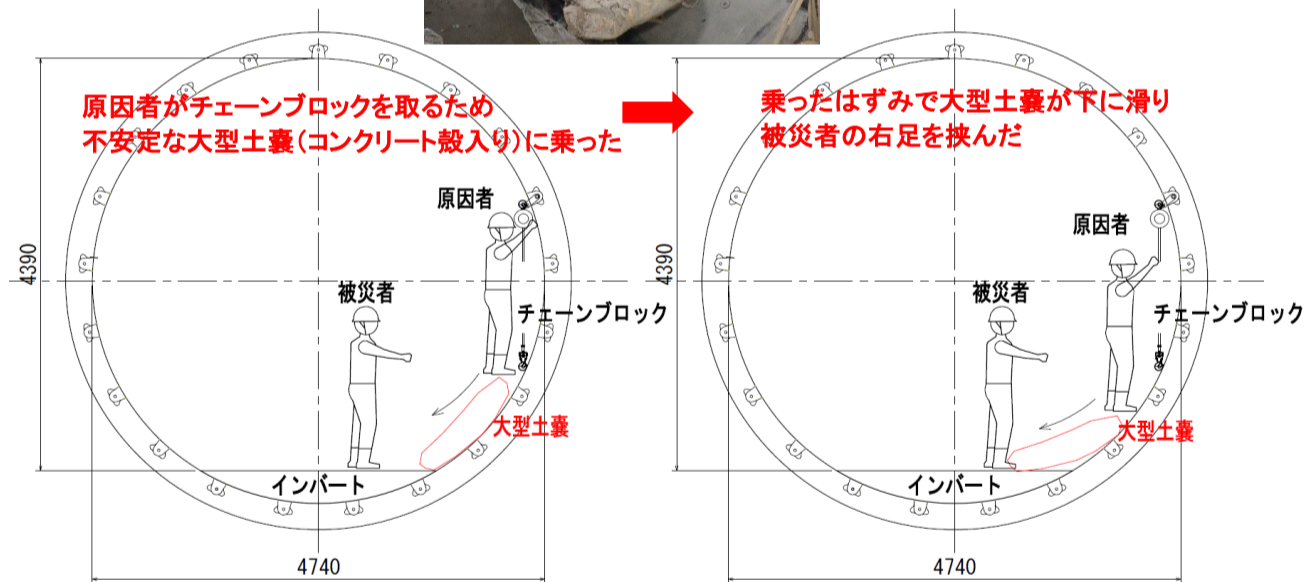




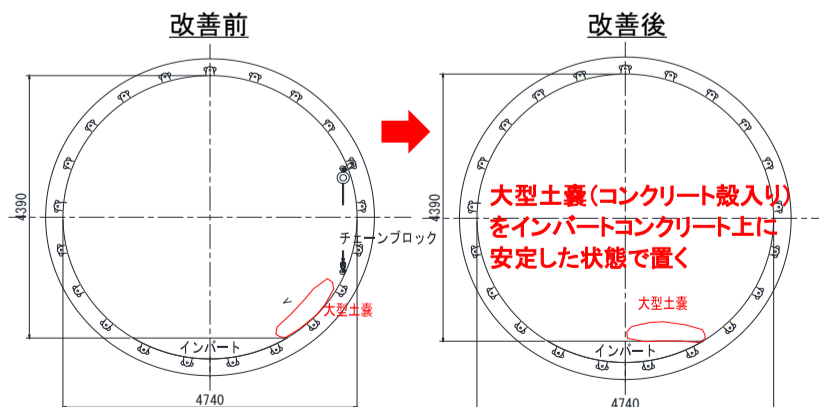
# 公共工事等事故情報

|      |  |      |                            |       |    |         |      |
|------|--|------|----------------------------|-------|----|---------|------|
| 事故分類 | 労働災害   | 発生日時 | 令和 2年 12月 28日(月曜日) 10時55分頃 |       |    | 工事関係者区分 | 三次下請 |
| 事故区分 | 挟まれ・巻き込まれ  | 性別   | 男性                         | 年齢    | 53 | 業種区分    | 土木   |
| 被災程度 | 右足2.4.5基節骨骨折   |      |                            | 事故レベル | Ⅱ  | 休業見込日数  | 4日以上 |
| 工事概要 | 地下鉄七隈線延伸工事   |      |                            |       |    |         |      |
| 事故概要 | 中間駅東工区の西行線シールドトンネル内(60R付近)にて、コンクリート殻が入ったフレコンバッグを移動しチェーンブロックを緩めた後、そのチェーンブロックを撤去する際に、原因者が不安定なフレコンバッグの上に乗ったため、フレコンバッグが隣にいた被災者の足元まで滑り、インバートコンクリートとフレコンバッグの間に足を挟まれ、負傷した。  |      |                            |       |    |         |      |
| 事故原因 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクリート殻入りのフレコンバッグが、作業通路を確保する為セグメントにもたれさせた不安定な状態で置いてあった。</li> <li>・チェーンブロックを脱着するための足場がなく、不安定な状態のフレコンバッグの上に原因者が乗ってしまった。</li> <li>・外したチェーンブロックを受け取るためにいた作業員が、不用意に近づきすぎていた。</li> <li>・KY活動時に危険箇所の確認及び職員の確認サインの不備があった。</li> </ul> |      |                            |       |    |         |      |
| 改善策  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクリート殻の入ったフレコンバッグを置く際に、インバートコンクリート上に安定した状態で置く。</li> <li>・コンクリート殻の入ったフレコンバッグを移動しなければならない場合は、クレーン仕様バックホウを使用して移動する。</li> <li>・当日作業前に職員立会いで危険個所の確認を行い、職員はKY活動表に必ずサインを行う。</li> </ul>   |      |                            |       |    |         |      |

## 事故状況図



## 改善状況図



## 再発防止周知会状況

